



シーアイ社と佐伯広域森林組合は、造林用資材を運ぶ林業用ドローンを開発しました。

## 林業 ドローンで省力化

ドローン（小型無人機）事業を手掛ける ci Robotics（シーアイロボティクス・大分市、小野俊二社長）と佐伯広域森林組合（佐伯市、戸高寿生組合長）は造林用資材を運ぶ林業用ドローンを開発し、5月以降に販売を開始する。作業の省力化によって就業環境を改善し、林業のイメージアップにもつなげる狙い。林業分野でドローンを実用化するのは県内で初めて。

県内では戦後植えられたスギ、ヒノキが育って伐採の時期を迎え、国内の木材需要も上昇傾向にある。それに伴い再造林事業も増えているが、現場では作業員の高齢化が進行。「きつい、危険」といったイメージから若い世代の就業は伸び悩

### シーアイ社と佐伯広域森林組合が開発



シカの食害防護ネットを運搬する林業用ドローン

### 15キロの資材 3分で190kg運搬

み、担い手不足が深刻化している。林業用ドローンは、シーアイ社と同組合が2018年度から共同で開発を進め、林業に特化した機体に改良を重ねてきた。本体とバッテリー合わせて30kgと大型で、1回に約15分間飛行できる。

3月初めに佐伯市青山の山林で実証試験があり、造林に使うスギ苗木（6kg）とシカの食害防護ネット（15kg）をそれぞれ上方110m、水平距離で190m離れた場所へ2〜3分で運んだ。人力なら1秒分を1日で運搬する場合、苗木は7人、ネットは13人が必要。ドローンを導入することで苗木は4人、ネットは3人だけで作業ができるようになるという。

2020年4月8日付大分合同新聞 22面

販売先は県内外の森林組合や林業関係の事業体を想定している。シーアイ社の増森啓太郎主任は「今回の試験で飛行の安定性が確認できた。販売開始へ向け、自動飛行の精度をさらに上げていきたい」。

同組合の戸高組合長は「開発当初と比べ動きがずいぶん良くなった。林業には大変な作業が多い。負担を減らすことができるドローンが広く普及してくれば」と期待している。（小松和茂）

① 林業用ドローンはどんな目的で開発されたのでしょうか。

.....

② ドローンが1回に飛行できる時間は？

.....

③ 人力なら20人が必要な苗木とネットを運ぶ作業を、ドローンを使えば何人でできるようになるでしょう？

.....

④ あなたならどんなことにドローンを活用しますか？ 考えてみましょう。

.....